

和地ひとみレポート No.49

平成24年東大和市議会第2回定例会 一般質問『東大和市の学校教育について』
新体制の教育委員会に質問。まずは基礎学力の向上を！！



■新体制になった教育委員会

…6月5日から開催されているH24年東大和市議会第2回定例会において、和地ひとみは『東大和市の学校教育について』と題して、以下の点についての現状と課題、今後の取り組みについて質問をしました。

『基礎学力について』

『小・中一貫教育について』

『学校の統廃合について』

『当市ならではの教育の取り組みについて』

『新教育長のもとでの教育委員会の上記以外の取り組みについて』

…東大和市では、4月に新教育長として真如氏を迎え、新たな体制の教育委員会が誕生しました。多くの課題のある東大和市の教育について、どのような考えのもとと取り組まれるのか、まずは、教育委員会の認識と考えについて確認したく、また、教育の向上が市の活性化にもつながることから、今回、和地ひとみはこのテーマにて質問を行いました。

■新教育長の3本柱

…真如教育長は、以前、学校教育部参事として当市でご活躍になり、その後、港区の小学校の校長として実績を出されている教育のプロです。その真如教育長が今回の就任にあたり、掲げているのは『生きる力の育成』『地域との連携』『学校の組織力の向上』の3本柱との話がありました。また、現在の当市の教育には課題が山積していることも認識されているとのことなので、一つ一つの取り組みについて具体的に確認を行いました。

■問題は学習への意欲、やる気

…多くの市民の方から耳にする当市の基礎学力の問題。このことについては、何度も市議会でも問題視され議論されています。そこで、その現状と取組の成果、また、今後の取り組みや目標について質問。まず、いつ当市の教育委員会では基礎学力の問題を認識し、改善の取り組みを行ったのかを確認しました。

…児童生徒の学力の調査には国の実施する『全国学力学習状況調査(小6、中3対象)』と東京都が実施する『学力の向上を図るための調査(小5、中2対象)』がありますが、当市においては、H15年の東京都の調査で都

の平均と比較し当市の平均が低く課題があることを認識。市の少人数学級指導員を3年間研究配置し、H18年度から本格的に配置。その成果として児童一人一人に応じた指導が大切であるとの教員の認識が高まり、授業改善に取り組む学校が増えたとのことです。また、H23年度の東京都の調査の中の意識面においては『授業が分かる』『授業が楽しい』と回答した児童生徒の割合が小学校8割、中学校7割と向上。意識面では成果は出ているものの、当市においては他の自治体よりも『無回答』『考えるのを直ぐにあきらめてしまい答案を出す』児童生徒の数が多という実態も。指導内容以前に、学習の大切さや意味を伝える工夫が今以上に必要だと提言したところ、教育委員会でも、まずは『なぜ学習することが大切なのか伝える』『つまづきのある児童への具体的な個別対応』を重点課題として今後も取り組み、まずは児童生徒の学習意欲の向上をめざし、その結果として東京都の平均を上回るという効果が出るという考え方で取り組みたいとの答弁でした。

■伸びを認め、褒め、基本を身に付けさせる

…学力問題に対し真如教育長からは『基礎基本を重視。小学校1年、2年で学習についていけなかったお子さんは高学年になっても先生の話している言葉さえわからないという状態になる。基礎基本をしっかりと指導すること大切だが、一旦差がついてしまうと、現場ではなかなか手が回らないというのも現実。よって、各校の校長の知恵で指導が行き届くための人を確保できるかがポイント。夏休みに地域から先生を募って、2学期に入る前に基礎基本を身に付けさせてあげることが大切。また、その指導の中では同じ物差しで測らず、一人一人の伸びをしっかりと捉え、その評価を子供に返してあげたい。子供たちもつらい学習なので、個々の伸びをもっと褒めて、褒めていってあげて良いと思う』という熱い答弁がありました。

…人づくりは国造り。子供たちの将来だけでなく、市の将来、発展にも影響があります。基礎学力については、学校の授業が楽しいと意欲が持てるよう、スムーズな義務教育のスタートを実現する取組みを1日でも早く実現するよう依頼しました。